

平成 29 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■鮎貝地区：7月10日（月）午後7時30分～9時 参加者数 43名

Q. スポーツ公園は町外からも人が訪れるところであり、鮎貝地区民にとっては思い入れのある場所である。現在はスポーツを中心に人が集まっているが、もう少し整備された公園にならないか。若い世代では、子どもたちを遊ばせたいという願いがあり、高齢者にとってはスポーツをしたいという願い、青壮年層でもレクリエーション的な遊びをしたいという声が上がっている。さらに、中丸溜池の整備なども考えていけば非常に楽しめる場所になると思う。

また、町全体としても、例えば川東が工業、商業、産業という色合いを出すとすれば、川西は文化、歴史、スポーツ面が持つ価値が高いのではないかと思う。町で考えているスポーツ公園全体の整備構想があれば説明してほしい。

A. スポーツ公園については、町の体育協会に諮問し『スポーツセンター整備構想』を取りまとめている。概要としては、スポーツ公園の中に管理機能や合宿できる機能、体育館的機能を備えたスポーツセンターを建設するというようなことと、野球場及びソフトボール場、公園等の整備など、スポーツ公園全体のリニューアルを行うというものである。その中で、特に野球場とソフトボール場については既にリニューアルされ、南東北インターハイの女子ソフトボール競技会場として、グラウンドの土の入れ替えや、スコアボードやフェンス、ダックアウトなどの改修をさせていただいた。スポーツセンターについては、『体育館建設基金』というものがあつたが、現在はそれを『スポーツセンター基金』と名称を変更し、建設に向けた準備を行っている。ただし、施設の規模や設置場所の検討、財源の確保、町の他の事業との調整等で課題があるので、現在は継続して検討しているという状況である。子どもたちが遊べるような部分も検討していかなければならないが、まだそこまでの詰めもこれからという状況なので、頂戴した意見も踏まえてさらに検討を重ねていきたい。

Q. 人口減少や後継者不足により、鮎貝地区の中でも日用品や食品を買える店がだんだん少なくなってきており、若者の間では鮎貝地区にコンビニがほしいという意見も出ている。大手コンビニチェーンの調査に基づいても、交通量が少ないため空いた道にコンビニをつくるのは難しいようだが、荒砥橋が早く架け替えられれば誘導実験も多くなり、鮎貝地区にもコンビニのようなものが整備されていくのではないかと期待している。

鮎貝地区には、高齢者の方が歩いて行けるような場所に店がないということもあり、これから高齢化社会を迎えるにあたって、町では歩いて買い物に行けるようなお店づくりなどにどのような対策を講じているか、または提案できるようなものはないかお聞きしたい。

また、蚕桑地区で行われている買い物支援の実証実験の状況と今後の見通しも併せてお聞きしたい。

A. 平成 28 年度に『買い物環境の調査委員会』を設置し、アンケートや現地視察、会議等を催し、予算化をして平成 29 年度の実証実験を進めている状況である。

実証実験には 3 種類のメニューがあり、その一つである「御用聞き事業」は 5 月 26 日から蚕桑地区で進めているところである。平成 28 年 4 月 1 日現在、蚕桑地区には 65 歳以上のみの世帯が 193 戸、75 歳以上のみの世帯が 95 戸あり、それぞれ蚕桑地区全体の 24%、12%を占めている状況である。この中で、買い物に困っているという方について、区長や町内長、民生委員の方に紹介していただき、町の職員がそれぞれのお宅を訪問し事業の内容を説明している。現在は 8 名の方に会員になっていただき、遠藤商店さんに協力いただいております。なお、お店にない商品については町内の「ゆ〜し〜る協同組合」に依頼している。実績については、5 月 26 日から 6 月末までで 8 名のうち 7 名の方にご利用いただき、全体で 5 万 7 千円ほどの売り上げとなっている。実績については、ひと月ごと報告いただき、10 月末までで一度検証させていただく。その後 30 年度にどのような形でつなげていくかについて再度協議会等を開催させていただくこととしている。

もう一つの「移動販売支援事業」については、現在、中山地区で移動販売を行っている方に申請をいただいております、この方は中山、針生、大瀬までを移動して販売していただいております。

3 つ目の「買い物ポイントサービス事業」については、デマンドタクシーをご利用いただいた際に 1 回のご利用で 1 ポイントとし、10 ポイント貯まると「ゆ〜し〜る協同組合」の店舗で買い物ができる仕組みとなっている。アンケートでは、自分が直接店に行って買い物をするという方が一番多く、店まで行く手段としてデマンドタクシーがあり、このようなポイントサービス事業を展開しているところである。

今後の見通しについては、蚕桑地区のみで行っている状況だが、もう少し範囲を広げていく必要があるのではないかと思います、その折には店側で対応したら良いのか、または地域活動として取り組んだら良いのかということも検討していく必要があると思う。

Q. デマンドタクシーを利用されている高齢者の方から、相乗りして買い物をする際に別の人が買い物をしているときの待ち時間が長いため、商店の外や中に椅子を設置してほしいと要望があった。町の民生委員の会合の席でその件についてお願いしたところ、社会福祉協議会から町へお願いするという話だった。高齢者にとって、荷物を持って立って待っているというのはかなりきついということを考慮していただきたい。

A. 商工会などのルートを使わせていただいております、商店などに要請させていただく。

Q. 今後、鮎貝駅から蚕桑方面へ入っていく道路整備はどのような形になっていく予定か。

A. 川西地区の区長・町内長さんに、西廻り幹線道路の早期完成を目指して期成同盟会をつくっていただいております、今年度からは川東の区長さんなどにも参加していただきながら全町の運動として取り組んでいただくと聞いている。

昨年は白鷹町と長井市とで西廻り幹線道路整備に係る要望書を県知事に提出させていただいた。ただし、現時点では長井市との温度差が少しある。長井市には、現時点では3カ所に促進期成同盟会があるようだが、最上川に近い集落と真ん中の集落と山側の集落とでは全く温度差があるため、長井市へは方向性を一つにしてほしいとお願いしている。いずれにしても早期にやっついていかないと県の道路計画に乗れず、ずっと話が流れてしまうことになる。長井市と話をさせていただいてはいるが、調整がどこまでできるかによってはじめて県の方で鮎貝駅前からどのような路線になるかの計画が出てくるのではないかと思います。

なお、この件については、白鷹町だけでなく置賜広域行政の中でも取り組ませていただいております、置賜総合開発協議会の中でも取り扱っていただくことになった。今後は町民運動の展開も必要になってくるかと思うが、皆さんのご協力もお願いしたい。

Q. 現在、ハヤタ製作所前のT字路に電柱が立ったままになっているが、今後もあの状態のまま続いていくのか。

A. 鮎貝から荒砥橋までの道路については、今の荒砥橋の道路を使っている影響で急激なカーブになっている。新荒砥橋が完成すれば緩やかなカーブになるのだが、平成32年までは気をつけて走行していただくしかないのです、よろしくお願ひしたい。

電柱の移転については詳しい話を聞いていないが、現在のままでは危険だという意見を県には伝えている。今回いただいた意見も踏まえて、再度確認させていただきたい。

Q. (西廻り幹線道路は)新潟と仙台を結ぶ道路ということで、すごく重要な意味を成すのではないかと思います。その上、新荒砥橋ができることで希望が見えてくるわけだが、最近、新潟―仙台間を飯豊から赤湯の方へ持っていかれる気がする。そこで、長井市だけでなく飯豊町にも仲間に加わっていただき、飯豊からR348を通して山形方面へ向かっていただく路線を完成させてほしい。

A. 西廻り幹線道路の話が長井市にさせていただいた際に、飯豊町にも話をさせていただきたいとのことだった。R113とのタッチ、あるいはR287が相当なスピードで整備をされており、この辺との連携をどのようにしていくかについては、飯豊町と一緒にしていくという確認をさせていただいている。しかし、まずはどのようなルートでどこにタッチしてい

くかが最大の課題であるので、互いに良いと思えるような方向性を選んでいけるように努めていきたい。

Q. 最近、地区内にクマが出没した場合、広報車による広報を行っているが、何を言っているのか全く聞き取れなかった。町の広報車かコミセンの車かわからないが、もう少しグレードを上げるなりしていただかないと何のために広報しているかわからないので、何とかしていただきたい。

A. クマの目撃情報をいただくたびに担当が広報車で出動して、猟友会の方と現場確認や足跡確認等を行い、その後広報を行っている。広報の内容は、車の速度が20km/h以下だと聞き取れると思うが、それ以上のスピードになると何を言っているかわからないという状況が出てきてしまうと思う。広報車が回る範囲や家屋がある場所についてはなるべくゆっくり走行するなどして対処していきたい。

クマについては、最近是人里にも現れるということで、クマの目撃情報があれば学校や保育園、各地区コミセンへ周知させていただいている。新聞については、警察から情報を得て新聞に掲載しているようだ。ただ、警察に話をすると長時間その場になくはならなくなるため、警察には連絡しないという方もいるようだ。電気柵などの活用も考えていただきながら、町としてもクマの情報共有について務めていきたいと思っている。

Q. 町内長として、クマの出没についての情報が入るまでに時間がかかっていると感じるので、何らかの形で早めに伝達していただきたい。

A. 区長へは連絡させていただいているが、地域によって対応の仕方もさまざまだと思うので、より良い方向でさせていただきたいと思う。

Q. 長井市では、緊急情報を聞くことができるラジオを全戸に配っていると聞いた。昔は有線放送でさまざまな情報を聞けたわけだが、今は外で流れる放送の内容が全く分からない状況なので、緊急用のラジオの配布も検討していただきたい。

A. 緊急情報の伝達については、屋外スピーカーを設置して全町に一斉に広報する方法と、各家庭に防災ラジオを設置して緊急時に一斉に放送する方法の2通りあり、それぞれに良さ悪しがある。

屋外スピーカーは、雨が降ったり強風が吹いたりした際は、うまく聞き取れない。一方のラジオについては、電源を抜いていたため緊急情報を受信できなかったという事例が何件もあったようだ。また、本体の料金や町内全域に電波を届けるためのアンテナ設置に係る経費についても考えなければならないため、現時点では屋外スピーカーの設置を選択し

て取り組んでいる。

今後はラジオについても検討したいと考えているが、財源確保等も含め時間をいただきたい。

Q. シラタカ・レッドについて、商用的な採算は合うのか。これからの見通しやテーマ、町民にどのような方法で紅花をつくらせてあげようと考えているのか。また、紅花をどのように利用していこうと考えているのか。

A. 紅花を摘んで、染料の紅餅を 200 kg 作ることを目標に取り組ませていただいている。紅餅 1kg で約 36,000 円となっており、それに町の補助金で紅餅 1 kg あたり 5,000 円のかさ上げをさせていただいている。そのほか、「見せる」紅花畑を国道沿い等につくる際には、10a あたり 10 万円の委託料をお願いしている。さらに、紅花は連作障害が発生することもあるため、土づくりのために一反部あたり 4t の堆肥を酪農協会の協力を得て支援させていただいている。なお、平成 28 年度は紅餅の生産で約 130 kg あり、県内の約 65% のシェアを誇った。しかし、紅花だけで食べていくことはできないため、紅花を生産しようと考えている方には、紅花を作った後の後作も考えていただきたいと思う。

なお、さまざまな支援をさせていただいている中で、現在の町内の紅花生産農家は約 30 戸いらっしゃると思う。町が平成 29 年度に支援させていただいている畑の面積が 4.3 ヘクタールであり、そのほかに生産されている方の面積と合わせると 5 ヘクタール弱になるのではないかと思う。